

中日輪船商事株式会社

神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部大濱慶子ゼミ 2 年次生

中日輪船商事株式会社は 1915 年、貿易商社として創業し、104 年の歴史を有する地元の老舗企業です。戦後は船舶用塗料、機器・設備を取り扱い、中国の大連市や南通市に子会社を開設し、国内外を舞台に成長を遂げています。男女ともに働きやすい職場づくりに努め、平成 30 年度神戸市から「こうべ男女いきいき事業所」として表彰されました。私たちゼミはグローバル・コミュニケーション学部で中国語を学んでいます。将来、外国語を生かし、国境の垣根を越えて能力を磨く仕事に就きたいと考えています。2019 年 6 月、ゼミ生全員で同

社を訪問し、最新の事業や男女共同参画の取り組みについてお話を伺いました。この日、西山晴美専務取締役、営業第 2 部の程奕奕部長代理、総務課の永井芳美課長が私たちを温かく迎えて下さいました。



「時代を創る～おもしろい会社～」、求められる商社のコミュニケーション力=人間力

中日輪船商事株式会社（以下「中日輪船商事」）のビジョンは、「時代を創る～おもしろい会社～」です。このインパクトあるフレーズに込められた思いを専務取締役の西山さんにお聞きしました。

「このビジョンは創業 100 周年の時に策定されました。商社というのはお客様の情報をキャッチすることが必要です。これは人とのおつきあいに尽きます。単にモノを買って売るというのではなく、お客様が解決してほしいと思っていることを提案していく。その提案に乗ってくれるいろんな人を巻き込んで、だれもが Win-Win の関係を築きメリットを得る。自分たちが率先して提案し、何かを創っていく姿を理想としているのです」。「“おもしろい商社”というのは、砕けた言い方をすると“中日輪船っておもしろいな、なんかやりよるんちゃうか”、そう期待される生き生きとした企業をめざしているのです」。

会社の掲げる行動規範をみると“コミュニケーション”がキーワードになっていることがわかります。「思いやりの心を大切にしています。今は AI の時代で、海外の取り引きでもメールで商談が済ませられ

ます。ですが直接人と会ってやりとりをすることで新たに生まれてくるものもあるのです」。

営業部長代理の程さんは次のように続けます。「外国語ができればよい仕事ができるかというところではありません。いかにその国の文化や人を理解し、分かり合えるかでのつきあいの深みが変わってくるのです。コミュニケーション能力、つきつめれば人間力、対話力ということになりますね」。

アジアからアメリカへ、時代のニーズに合わせ広がる事業と女性社員の活躍

中日輪船商事はこれまで主に船舶用機器、産業機器、橋梁、鉄鋼、プラント用塗料などの販売代理店として発展してきましたが、3 年ほど前からアメリカのメーカーの船舶用 SOx スクラバーという新しい商



材の販売に着手しました。2020年1月以降、船舶の環境規制が厳格化されることが決まっており、この製品を船に搭載すると、一般海域を運行する際に排ガスの排出規制内に抑えることができ、環境対策になるため、国際的に注目を浴びています。同社ではこの製品の販売の種まきからはじめ、目下徐々に売り上げが伸びているところだといいます。時代や顧客のニーズに合わせ、会社のネットワークや海外展開はアジアからアメリカへと広がっています。しかも、ネイティブ並みの英語力を活かし、S0xスクラバーの販売部隊をとりまとめているのは女性の営業部長だということです。

女性社員数は全体の半数を超え、女性管理職の割合は3分の1

現在の中日輪船商事の社員は29名、そのうち女性は16名、男性13名、これまで男女半数の割合を保ってきました。管理職の女性割合は3分の1、西山専務取締役、総務課の永井課長をはじめ、スクラバー販売に携わる営業3部部長、経理課課長も女性です。女性管理職が3分の1というのは、同業種や日本の現状を踏まえるとかなり高い数値です。また女性の営業職も活躍しており、海外出張にも行きます。程さんによると、少数で仕事を回しているため、営業・事務職の線引きがなく、日本の仕入れ先との納期調整、見積り、対応、トラブルの連絡に至るまでほぼ女性職員が担っており、国内出張へも行き、後方支援の女性の力も大きいということです。

男性社会の船舶、造船業界、中日輪船商事は以前から男女平等の協力的な職場環境

船舶や造船業界は重厚長大産業で、昔から男性が担い手になっている領域です。なぜ中日輪船商事では女性の雇用や管理職の登用に積極的なのでしょうか、女性はこの業界でやっていけるのでしょうか。



「船舶の機器、造船業界というのは男性社会で今でもそうです。やはり女性の登用は珍しいです。20年近く前にも女性営業職はいましたが、女性ではしんどいのではないかとされていました。今はだいぶ改善されてきていると思います」。中日輪船商事は「不思議ともともと男性が上位で女性が後についていくという風土ではありませんでした」。(西山さん)「特に造船所は装置化が進んでいるとはいえ、重労働なので男社会の色合いが濃いです。現場も男性が多い。けれども造船所にもいろんな部署があります。購買、設計、事務など、日本より中国の方が女性の社会進出が進んでいて、管理職にも就いています。」(程さん) 男性社会といわれる船舶、造船業界に属しながら、同社が性別に関係なく働くという習慣を育んできた背景には、戦後理工系分野の女性進出が進んだ中国および海外の多様なビジネスマンたちと接してきた経験に根差しているのではないのでしょうか。

産休育休取得後、女性の職場復帰を望む支え合う職場風土

管理職になった女性の中にはキャリアのある人を採用したケースと新卒採用で、事務職からコツコツを積み上げて管理職になった女性もいるといいます。「会社のトップもそうですが、産休育休を取る時も男性社員は協力的です。産んで戻ってきてね、休んでいる間はみんなでなんとかしようという協力的なマインドや体制があります。女性社員が職場に帰ってきて力を発揮してほしいと思う人材であることも大きいですね」(西山さん) 社員が皆で支え合う環境が、出産育児を経ても、女性が安心して働くことが

でき、キャリアを中断せずにすみ、女性管理職が誕生する環境を育てていると感じました。

学び合う社内の人材育成プログラム

中日輪船商事では社員が専門知識を学び、仕事内容に応じた能力を高めるための人材育成プログラムの充実化を図っています。英語、簿記、貿易実務などの講座の他、「部の担当役員が業界のレクチャーをします。コンプライアンスや法律については外から専門家に来て頂いて、例えば海外取引の契約の交わし方、注意点などのスポット的に講義頂くこともあります。管理職にはファシリテーションやエンゲージメントの研修を定期的に行っています。」（西山さん）



ワーク・ライフ・バランス—海外とビジネスを展開する上での働き方の課題—

「こうべ男女いきいき事業所」の紹介によると、同社の有給休暇の消化率は高く、仕事とプライベートの両立ができる会社として評価されています。一方で、西山さんは管理部を担当している立場から課題もあるといいます。「特定の事業部にあるプロジェクトがどんと来ると、残業が深夜に及び、それをなんとか解消しようと苦労をしたのです。単純に人を増やしたから仕事楽になるとか、残業が減るというものではないので難しいです」。「スクラバーの販売を担当している部署のお客様は主として国内の船主さんですが、メーカーがアメリカ東部にあるため、昼夜正反対になります。直接メーカーの方と商談をしたり、テレビ会議をしたいとなると夜中しかありません。暫定的に担当部隊に自宅勤務を認め、夜に仕事をやってもらい、その代わり翌日の出勤時間を遅くするなどの措置をとって無理がでないようにしています。どのようなやり方がよいのか、課題でもあります。」



仕事してみたいと感じる快適なオフィス環境

会社は元町駅から徒歩近くであり、白を基調としたオフィスのビルはスタイリッシュで、ご案内いただいた最上階の会議室は、緑豊かな山側六甲山が一望でき、心地よい光が降り注ぐ素晴らしいオフィス環境です。女性の視点や社員の声を取り入れ、ファニチャーを選ぶときも、コストカットはせずに事務デスクはスペースが広くとれるもの、長時間座る椅子は座り心地のよいもの、ミーティングに適した丸テーブルなどを増やし、ハードとソフトの両面から快適な職場づくりに努めています。今回、実際に社内に入り、とても明るく、清潔感にあふれ、仕事がしやすい雰囲気と空間が広がっていて、こんなオフィスで働いてみたいと思いました。

成長著しい中国と日本の架け橋として、これからの働き甲斐の基準は自分自身にある

中国ご出身で1990年代に来日、長年日本と中国の架け橋となって活躍されている程奕奕さんに現場の声や、中国語を学ぶ私たちに向けてのメッセージを頂きました。

「中日輪船にお世話になり、長く勤務していますがいろんな面において働き心地がよい会社だと思いますね。中国に出張に行くたびに街も変化し、すごく成長していると感じます。人々が求めるものはお金

だけじゃなくて、よい生活や仕事をしたい、違う世界を見てみたいという意識をもっています。そうでないと取り残されてしまうのです。「日本はバブルが弾けた後、活気が感じられないのです。みんな悪い暮らしはしていないけど、もっと頑張って何かをやろうという覇気がないですね。アメリカを筆頭に高度な技術がどんどん開発されています。技術や管理体制が整っていれば、現に中国でも iPhone が作れるようになっていきます。これからの時代、大手の会社に入ったからといって、安泰というわけでは決してありません。「自分が一番大切だ」という気持ちを持ち、働き甲斐について考え、これからどうなりたいのか、何をしたいのか、そのためにどんな勉強をすべきか、まず自分自身で将来を考えてみるべきですね」。

まだまだ少ない船用工業界の女性管理職、女性という立場を一つの持ち味に

専務取締役として会社を支える西山さんに管理職としてめざしている女性像についてお聞きしました。

「日本船用工業会では親族でなく、女性が役員になっている企業は他にないと社長から聞かされ、プレッシャーに感じたこともありましたが、どうあるべきかとすごく考えました。日本もまだまだ男社会ですから。でも女性ならではの気遣いや力の発揮の仕方、得意分野というのは必ずあると思います」。「金融機関の方とお話をする機会が多いのですが、特に支店長や上の立場の方はまだまだ男性が多く、やはり女性は珍しいといわれます。先方のお客様の構え方も異なってきます。そこで男性にはない柔らかさや雰囲気、コミュニケーションの取り方そういったものを活かしていければと考えています。」

インタビューを終えて

私たちは最初、中日輪船商事株式会社のお名前を聞いた時、男性が働いている会社のイメージを思い浮かべました。しかし実際訪問してみると、颯爽とした素敵な西山さんや永井さんにお会いし、女性が管理職に就いていることを知り、イメージがガラリと変わりました。私たちが投げかける質問の一つ一つに西山さん、程さんのお二人が丁寧にお答え下さり、仕事の厳しさ、温かさを教えてくださいました。1階エントランスには私たちゼミ名入りの「Welcome to our office」の立て看板があり、随所に細やかな気遣いやアットホームな雰囲気が伝わってきました。男性はもちろん、女性も働きやすい職場であること、有給休暇を取得したり、産休育休を終えた女性が職場に帰ってきやすい環境であることを実感しました。入社



後、学び続けられる社内研修プログラムも魅力です。個人や企業がイノベーションやグローバル化に適応し、さらに発展していくうえで大切な制度だと思えます。

就職活動についてお聞きしたところ、可能な限り大学生を新卒で採用し、一から人を育てていきたい、希望があればインターンシップも行っていただけるとのこと。今回の企業訪問で頂いたメッセージを大学生生活や今後の就活に生かしていきたいです。

(徳力 柁希、金光このみ、 稲積真子、岩本崇寛、藤田直哉、島愛華、高橋利佳、三橋風香、光永彩乃、大塚さや、森本晴貴、朝倉汐里)